

東京都教育委員会

授業改善推進拠点校事業 中間報告会

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果を生かした授業改善について

新宿区立戸山小学校の取組事例

1 学力調査等に基づいた自校の課題分析①

問題番号	出題の趣旨	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
3二	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	15.3
		2.3	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	15.6	
		1.9	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	15.2	
		1.1	1.2	1.3	0.0	5.6	19.0	0.0	6.9	20.8	無解答
		0.0	5.6	19.0	0.5	5.3	23.0	0.0	8.3	17.4	14.5
		0.5	5.3	23.0	0.4	4.3	28.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		0.4	4.3	28.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

無解答

本校 20.8%

東京都 17.4%

全国 14.5%

20.8

17.4

14.5

問題番号	出題の趣旨	解答類型										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	無解答
1四	互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる	47.2	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	4.2
		51.1	0.2	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	3.4	
		47.7	0.2	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	3.0	

無解答

本校 4.2%

東京都 3.4%

全国 3.0%

4.2

3.4

3.0

1 学力調査等に基づいた自校の課題分析②

○記述式の問題で無解答率が高い

- 設問に対する解答の書き方そのものが分からず、書かないで終わらせてしまう。
- 設問そのものの内容を読み取れず、問題に適した答えを出すことができない。

1 学力調査等に基づいた自校の課題分析③

○他の人と考えを共有しながら 課題を解決する。

- 「授業では他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っていると思う。」に肯定的に回答している児童は相関的に「全国学力・学習状況調査」でも正答率が高い。



- 思いや考えを共有し合える場を設定することは無解答率の減少へつながるのではないか。

2 課題の解決に向けた手だての明確化

研究主題

**言葉を豊かにし、自分の考えや思いをもち
表現できる児童の育成**

～国語科指導法の充実～

目指す児童像

**国語科を中心に、児童自らが、主体的に語彙力や表現力を高めることにより、自らのコミュニケーション能力の向上を図り、
自分の思いや考えを正しく伝えられる児童**

2 課題の解決に向けた手だての明確化

国語科における

「戸山スタンダード」の確立

～児童全員が45分間集中して取り組める授業を～

- ①児童の意見を基に、単元計画を立てる。
- ②毎時間のめあて・目標を明確に示す。
自己評価としての振り返りをさせる。
- ③ミニホワイトボードやICT機器を活用し、友達との意見の共有、交流する場として話し合い活動を取り入れる。
- ④語彙を習得するための辞書引き学習や、読書活動の充実を図る。

2 課題の解決に向けた手だての明確化

* どの児童も全員が同じスタートラインで単元に入り、 45分みんなのできる授業

○単元計画を明確にする。

最初に「初発の感想」を書かせるところから単元に入り、その児童の言葉を基に単元（学習）計画をつくる（もちろん教師の意向を忘れずにもっておくこと！）。

○話し合い活動を適宜入れる。

話し合いは3人もしくは4人が望ましい。ミニホワイトボードやICTを活用する。→話し合い活動をするための3・4人組を意識した座席配置（特別支援・日本語指導に配慮）。

○毎時間「振り返り」の時間をつくる。

学習時間の確保のため、低・中学年は選択肢を与える。単元計画の下に振り返り欄をつくる。授業導入時には、前時を振り返る場面が必ずあると考え、単元計画や学級内の掲示物を使用し、毎回の授業のつながりを意識できるようにする。

○辞書引き学習や読書活動の充実を継続して行う。

2 課題の解決に向けた手だての明確化

国語科における

「戸山スタンダード」の確立

① 児童の意見を基に、単元計画を立てる。

- ★単元の目標から反れないように教師側がねらう学習計画を立てておく。
- ★単元の終末の姿を最初に伝えておくことで、児童が見通しをもって学習に参加できる。

2 課題の解決に向けた手だての明確化

国語科における

「戸山スタンダード」の確立

- ② 毎時間のめあて・目標を明確に示す。
自己評価としての振り返りをさせる。

★毎時間の達成感を積み重ねる。

2 課題の解決に向けた手だての明確化

国語科における

「戸山スタンダード」の確立

- ③ ミニホワイトボードやICTを活用し、友達との意見の共有、交流する場として話し合い活動を取り入れる。

★友達の意見を参考にしたり、まねをしたりする場の設定
座席の配置や話し合い活動時のグルーピングが重要

2 課題の解決に向けた手だての明確化

国語科における

「戸山スタンダード」の確立

- ④ 語彙を獲得するための辞書引き学習や、読書活動の充実を図る。

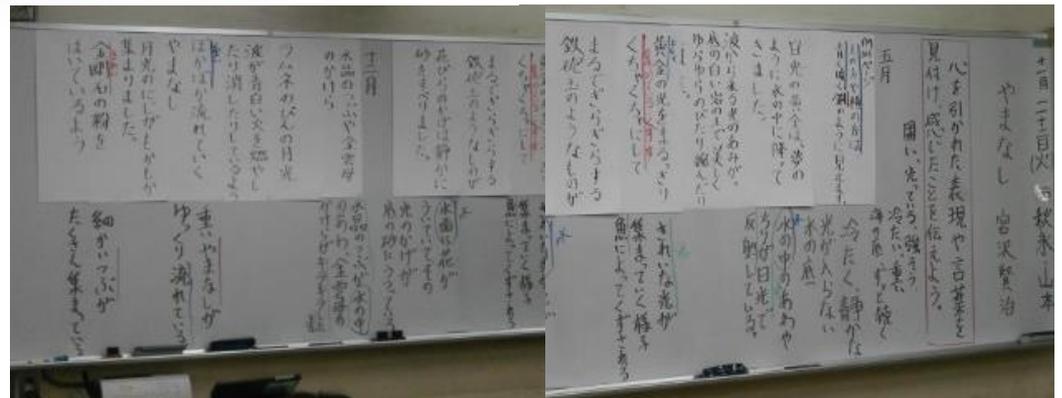
★国語の授業内容への理解

★児童が視覚的に満足感をもてるような工夫

3 手だての実践と検証②

研究授業② 6年生

「やまなし」



4 成果と課題

<成果>

- 児童が見通しをもって授業に参加することができた。
- 友達の考えを取り入れながら語彙を増やすことにつながった。
- 自分の思いや考えを伝えられるようになった。

<課題>

- 学齢に応じた情報の内容や容量を精選
- 話合い活動のねらいを明確に
- 様々な話合い活動のスタイルを定着
- 辞書引きで獲得した語彙を使用

東京都教育委員会 授業改善推進拠点校事業 中間報告会

ご静聴ありがとうございました。

